

# 迫害者サウロの回心

2022年7月17日

使徒の働き 9章1～19a節 ルカによるサウロの回心の記録  
22章4～16節 エルサレムの民衆への弁明  
26章9～18節 アグリッパ王の前での弁明

8章 ノアの子ハムの子孫アフリカ人（エチオピアの宦官）の回心  
9章 セム イスラエル人（サウロ）の回心  
10章 ヤペテ ローマ人（コルネリオ）の回心

序：一等星、ダイヤモンド = パウロ（ローマ名）=サウロ（ヘブル名）  
どういう人か？

使徒 22・3 タルソ生まれ、エルサレムのガマリエルの門下生  
ユダヤ教、律法の教育を受けたエリート

ピリピ 3・5～6 由緒正しいイスラエル人（血筋、律法、割礼）  
正義感と熱心によって、キリスト信者を異端とし、迫害

使徒 7・58 ステパノの殉教時、石打ちにした人たちの着物の番  
8・1～3 エルサレム教会、エルサレムの信者たちに激しい迫害

どう変えられたか？

教会の迫害者 ⇒ 教会を建て、護る者、神と福音に仕える者

## I. サウロ復活のイエスに会う

(1)ダマスコ途上（エルサレムから逃げたキリスト信者を捕らえ、投獄、処罰）  
↓  
シリヤ 脅迫と殺害の意に燃えて エルサレム・ユダヤから外へ  
大祭司（議長・ローマ当局から権限委託）のお墨つき  
いつものように／情け容赦なく／その道の者なら男も女も捕らえ  
エルサレムに引いて来る

(2)天からの光 倒れ伏す

(3)主の御声 「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか？」  
キリスト者への迫害=教会のかしらキリストへの迫害  
サウロ 「主よ、あなたはどなたですか？」  
主 「あなたが迫害しているイエスである」  
イエスはよみがえって、今も生きておられ、パウロを知り尽くしておられる

(4)主⇒サウロへの指示 「ダマスコの町に入れ。すべきことは告げられる」  
異常な、突然の事態に驚愕、何が起きているのか、どう対応するのか  
今までを振り返り、悔い改める機会を与えられた

(5)聞き分けられたのはサウロのみ（同行者には意味不明）

(6)サウロは目が見えなくなる 手引きしてもらってダマスコに入る（弱く不甲斐無

(7)三日間、盲目、飲食しない（主は復活して、生きておられ、彼に語りかけた）  
事実に圧倒され、痛烈に自分の考え・行為を顧み、真剣に求道開始  
悔い改めと待機するとき 罰ではなく、恵み

## II. アナニアの訪問（サウロの新生の際、神に選ばれ、派遣）

(1)ダマスコ在住のユダヤ人キリスト者 22・12  
律法重んじる敬虔な人、そのユダヤ人全体の中で評判の良い人

(2)主からの命令 (幻)

「まっすぐ」という街路、ユダの家に滞在中のサウロというタルソ人を訪問  
彼は祈っている = 新生した証拠 / 神との交わり

×念じる

悔い改めの祈り、主の道を求める祈り、イエスを救い主&主と信じる祈り

アナニアという者が来て、手を置くと再び見えるようになる (幻)

(3)アナニアのためらい・抗弁

サウロはキリスト信者の迫害の急先鋒、熱心で苛酷

ダマスコに来た目的を熟知 恐れ、戦慄

サウロが本当に回心したとは、とうてい信じられない

エルサレムでの激しい迫害、それでも満足せず、外地にまで手を伸ばす

あなたの聖徒たち、あなたの御名を呼ぶ者たちを捕縛

祭司長から権限を委譲 ダマスコでも迫害を、と身構えた (恐怖の的)

(4)主の命令「行きなさい」(説得や議論はしない)

サウロ=神の選びの器 (異邦人、イスラエル人、世の支配者たちへ

救い主&主であるキリストの福音の伝道

=その使命は光栄かつ苦しみを伴う

(5)アナニアの従順 → 神の計画が前進

サウロを訪れる

按手して告げた

①兄弟サウロ (同じ信仰をもつ者)

②来訪の目的 a. 視力の回復

b. 聖霊に満たされるため

承認や任命のためではない

III. サウロの劇的な救い

(1)神の選び+恵み+信仰 ±0 =救い

父 御子 御霊

(2)目から鱗 ⇒ 目が見える (新生、新しい使命に生きる)

(3)バプテスマを受けた by アナニア (信仰のしるし)

(4)食事をして 体力も回復

IV. 結び

(1)きよい良心を持ちたいという強い願いと生活 23・1 24・16  
生温くない、最善を尽くす

(2)求める人を神は助け、救ってくださる

(3)先に信じた者の助け、導き (神が選び、告げ、遣わされる) が必要

アナニアはサウロを最初に訪問した人

兄弟として受け入れた

大使徒パウロの新生と召命のため、祈り、主に従って、務を果たす

(4)回心 (内側) に続く聖礼典 (外側、公け)、実際の信仰生活

バプテスマ、聖餐、愛餐 福音の証し

人にはできないことでも、神にはできる、してくださる

新生は生涯の大転換 (人によって現れに違いはあるが)

主とともに歩むことには苦しみも伴う (生きるには、死ぬことが前提)

しかし、報いは大きい、ゴールは定まっている、主がともにおられる安心感